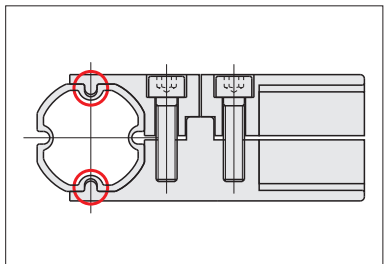


FACTORY FRAMES

# ファクトリーフレームシステムの特長

## ■ファクトリーフレームシステムの特長

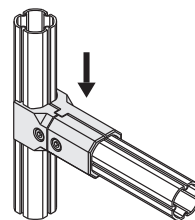
- 従来のパイプフレームに比べて、以下の利点があります。
- ・組立時に直角度を出しやすい。
  - ・組立後の微調整がしやすい。



フレームの凹みとジョイントの突起を合わせることで、簡単にねじれなく組むことができます。

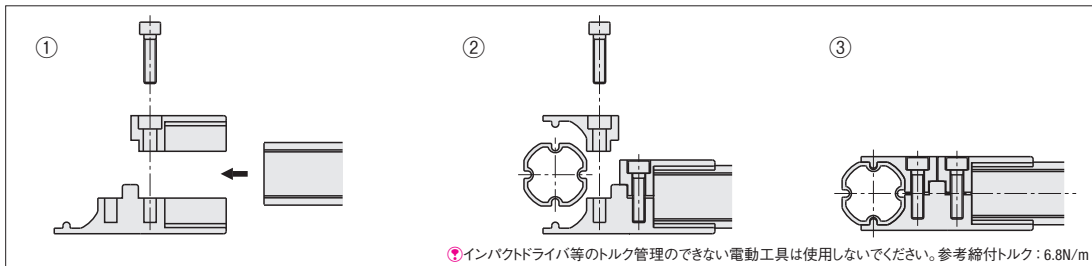
## ■許容荷重について

- ・ファクトリーフレーム用ジョイントの許容荷重



ジョイントがずれない荷重  
最大荷重=約80kg

最大荷重は静荷重での値であり、衝撃荷重はこの値より小さくなる場合がありますので、ご注意ください。



インパクトドライバ等のトルク管理のできない電動工具は使用しないでください。参考締付トルク：6.8N/m

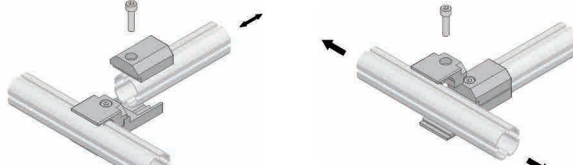
それぞれのフレームを固定するボルトを順番に締めていけば組付できます。一度に複数のフレームを固定する必要がないので、簡単に組むことができます。

### ・従来フレーム・ジョイント



ボルトを緩めると両方のフレームが動いてしまいます。

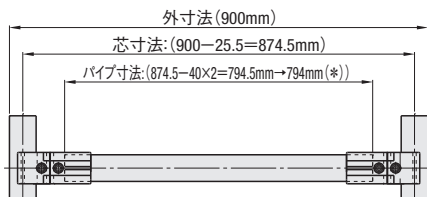
### ・ファクトリーフレームシステム



それぞれのフレームを別々に調整可能です。

従来のフレーム・ジョイントではフレームをずらす際に、ボルトを緩めると両方のフレームが緩んでしまいましたが、ファクトリーフレームシステムではずらしたフレームだけを緩めることができるので、組立後の修正・調整が容易です。また、組立時に複数のフレームを同時に手でおさえる必要がありません。

## ■パイプ寸法の計算方法



\*小数点以下の寸法が出た際には、小数点以下を切捨ててください。

FFB1を使用した場合

$$\text{芯寸法} = 900 - 25.5 = 874.5\text{mm}$$

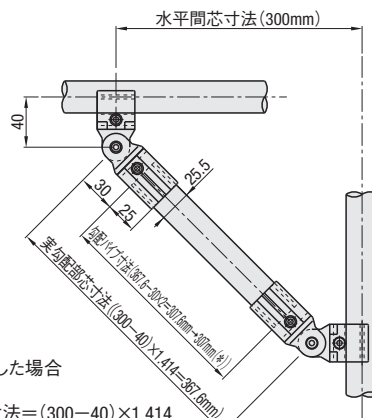
$$= \text{外寸法} - \text{ファクトリーフレームの直径}$$

$$\text{パイプ寸法} = 874.5 - 40 \times 2 = 794.5\text{mm}$$

$$= \text{芯寸法} - \text{パイプの中心から先端までの距離} \times 2$$

パイプ寸法で小数点以下の値が出た際には、小数点以下を切捨ててください。

$$\rightarrow \text{最終的なパイプ寸法} = 794\text{mm}$$



FFB5を使用した場合

$$\text{実勾配部寸法} = (300 - 40) \times 1.414$$

$$= 367.6\text{mm}$$

$$= (\text{水平間芯寸法} - 40) \times 1.414$$

$$\text{勾配パイプ寸法} = 367.6 - 30 \times 2 = 307.6\text{mm}$$

$$= \text{実勾配部寸法} - \text{支点からパイプの先端までの距離} \times 2$$

\*パイプ寸法で小数点以下の値が出た際には、小数点以下を切捨ててください。

$$\rightarrow \text{最終的なパイプ寸法} = 307\text{mm}$$